

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392500266		
法人名	株式会社アバンセラライフサポート		
事業所名	グループホーム ころる春日井		
所在地	愛知県春日井市下市場4丁目13-8		
自己評価作成日	平成28年 3月10日	評価結果市町村受理日	平成28年 4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2392500266-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2392500266-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 3月31日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

毎朝決まった時間になると2Fから歩行可能入所者が下肢機能訓練を兼ねて職員と共に階段を使って、ゆっくり降りてきている。入所者・職員がグループホームの理念と運営理念を大きな声で提唱している。その後、ラジオ体操を実施している。個々の状況に合わせて、食後の食器拭きや、おしぼり巻など日常生活の機能訓練を自然体で行って頂いている。家庭の団欒のような雰囲気、他者を思いやりながら笑顔や笑いが絶えないことで免疫力を高めている。入所者や職員の笑顔が自慢の施設である。入浴は週3回を基本とし清潔保持や気持ちよく過ごして頂いている。食事は行事食・日々の食事共に手作りを実践している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者はホームの開業時から運営に携わり、ユニットのリーダーを経て本年1月から管理者に就任している。新管理者として理念「地域の中で自分らしく安心して暮らせるホーム作りを目指します」の精神を継承し、自らの豊富な経験を活かして利用者、職員、現場を隅々まで理解し、利用者個々の的確な支援を具体的に職員に提案、共有して実践している。  
理念の骨子「自分らしく安心して暮らせる」は、先ずは無用な支援を避け、利用者の出来ることを増やし、自立した暮らしの継続、改善に取り組んでいる。複数の車椅子利用者は、歩行訓練を行って筋力強化を図り、今では手押し車や杖を使用して自立歩行を可能にした。失禁のあった利用者は排泄パターンを把握し、適切な誘導を行い、紙オムツを布パンツに改善している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスと地域とのつながりを基本に作り上げた理念を毎朝、ラジオ体操前に利用者と職員で唱和し、理念に基づいた介護を実践している。	理念をホーム内に掲示している。理念を毎朝唱和し、理念は職員に浸透している。管理者は理念を実践に反映するよう、日々職員に助言を行って実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事に声をかけて頂いたり地域とのつながりを大切に溶け込めるように努力をしている。	町内会に加入し、盆踊りへの参加やホームの前を子供の祭り行列の通過場所とし、利用者の地域に関わる機会としている。地域のお寺のお茶会「お寺カフェ」の招待状を受け、利用者はスイーツを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての理解されていない面会者や見学者に介護の方法や対応の仕方を説明をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の介護度や職員の紹介、毎日の行事等を報告することで生活状況を把握している。確定申告の時期になると「障害者控除」についてや借りやすく市から説明してもらっている。	年6回の運営推進会議は複数の家族、地域と行政の参加を得て、ホームの運営状況を報告し、地域、行政の情報を基に各参加者は積極的に意見を表し、意見を実践に反映するよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の案内やホーム便りを届けたら、困ったことや解決できないことに対して、介護保険課に意見を求めたりしている。	管理者は報告、相談、手続きに行政を訪問し、連携する関係を築いている。行政仲介の青少年のボランティアを受入れ、利用者との交流に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ安全のために施錠を行っている。デット柵使用に関してはADL保持や転倒・転落の危険性のない利用者から排除を行い、身体拘束をしないケア介助につなげている。	法人およびホーム内の勉強会を定期的に実施し、職員は拘束をしない介護の知識を有している。玄関、居室の窓に施錠はない。帰宅願望の強い利用者があるため、死角になる裏の出入り口についてのみ安全を考慮して施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の会話や言葉がけ、何気ない介助の中にも虐待が潜んでないか十分注意を払い事例で学ぶ機会をもうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者のご家族が成年後見人をされており、常に健康に配慮し安心した生活が送れるように生活状況を把握されていることで成年後見人制度とは、どのような制度が自然に学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては入居時に分かりやすく説明をしている。料金改定時には、運営推進会議の場や手紙等で説明を行い納得していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に日々の暮らしぶりや体調状況をお知らせしている。家族からの意見や要望はブロック会議に議題として本社マネージャーや各施設長で話し合いの場を設けている。	家族と気兼ねなく意見を交換する関係を築くよう努めている。家族の訪問時や電話を利用し、利用者の衣替え、日用品の購入相談、家族への外出協力依頼と、様々に家族と意見を交わして利用者を支えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や何気ない会話の中で困っていることはないのか、働きやすい職場を作るにはどのようにしたらよいか、意見交換がしやすい雰囲気作り心掛けています。	職員は、月1回の職員会議と毎日の申し送りに意見を表している。職員の中からレクリエーション委員などを選任し、複数の役割を設けて会議に提案し、話し合う機会としている。	職員のチームワークは良好である。管理者が着任して間もないため、管理者、ユニットリーダー、一般職員の職掌分担を精査し、連携ミスのない適正な運営となるよう望みたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のモチベーションを今以上に上げることで各自の向上心に繋がると思っている、技術向上に向けて意見を取り入れ取り組みたい課題の一つである		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では、施設利用者に合わせた服薬関係や移乗の仕方、おむつの当て方等利用者の状態を把握できる研修を行っている。外部研修にも職員が順次参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設サービス部会に参加することで他の施設の管理者や職員と交流を持つことができお互いの施設を行ったり来たりしながら良い点を吸収している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入所することにあたってどのような要望があるのか、困っているのか、どのような生活を望んでいるのかを聴き取り安心してもらえるような関係作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に毎日の生活状況を伝えたり、会話の中から今までの暮らしぶりを聴き取り家族が何を望んでいるのか、どのような生活を希望しているのか把握している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設内サービスで何ができて何をしてはいけないのか、を説明をし理解をしていただいているので、本人に適したさびすを供給している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にもリハビリテーションを兼ねて食事作りや洗い物を共に行い、洗濯物をたたんだり干したテーブルを拭いて頂いたり、モップ掛けなども自分の仕事のように協力し合い生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族訪問があった時など、近くの喫茶店でお茶を飲んで頂いたり、通院時には外食をしていただいたりと家族との関わりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時にはご自宅まで出かけ近所さんと立ち話をしたり、元同僚の方と出かけたり来て頂いたりして楽しい時間を過ごす支援をしている。	地域の知人、婦人会で活動した仲間の訪問を受け、関係の継続を支援している。利用者の馴染みの店の買い物、喫茶店への外出を支援している。正月の書初めは利用者全員で行い、正月の習慣を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が一つの家族として生活している。利用者が一人姿がみえない時など職員に「あの人どうしたの」と心配されたりしている。どなたかの家族様が来られた時なども皆さんどなたも嬉しそうにされ「よかったね」と声掛けされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が亡くなれば契約が切れた後も時々遊びに来て下さりお話しされたりおやつを皆さんと召し上がられたり過ごしていられる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に寄り添うかいごをしているが困難時にはすぐに個人カンファレンスを開き対策、検討を行う。	入居時に利用者の生活歴を把握し、職員が共有している。利用者の日々の会話や仕草を在りのまま「ケース記録」に記録し、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。	利用者の生活歴、人柄、嗜好などの把握は利用者を理解する大切な情報である。入居後に把握した情報を追記し、更に利用者を理解するよう望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や入居等に今までの生活歴や情報を把握しているが日々の暮らしの中の雑談からも暮らしぶりを聞くことができる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルや体調を確認することで健康に感しては十分配慮をしている。自分ができる役割に関しては理解されておりご本人の力量を理解していされている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のミーティングに個別カンファレンスを行い、現状や、出来ること、出来ないことを把握し、ご家族が面時には、会話の中から希望を聞くように心がけて介護計画に活用している。	介護計画の実施状況を検証し、見直しは1年を目処に実施している。介護計画には「その人らしい」個別計画は少なく、身体的支援の計画が中心である。	利用者、家族の意見の収集に努め、「その人らしい」個別計画の作成に期待したい。計画の見直しは、従来の1年から短期に変え、利用者の変化を捉えた計画の見直しを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、夜勤者との申し送りをを行い、再度各階の職員と気づきや変化を報告し合う。夕には、日中の出来事や変化を再度申し送りをし情報を職員が共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々どのような事態にも対応できるように優先順位を考えての介助や支援が実践できるように取り組みができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広報春日井、町内の回覧板、利用者家族等から情報をもらい参加できる行事は一緒に楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族も通院している医療機関がかかりつけ医として月1回の往診がある。往診で対応できない時には病院にて適切な治療が受けられることで早期完治に繋がっている。	協力医は月1回の往診のほか、必要に応じて往診し、利用者を親身に診ている。協力医所属の看護師が週1回訪問し、協力医と連携して24時間の体制を敷いている。協力医提携の薬剤師が服薬の指導をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問介護士による健康チェックが行われている。その都度看護師に利用者の情報を伝えることで適切な治療や情報が先生に伝わる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院情報は家族と一緒に同席し情報を得るようにしている。他院時には看護サマリーや退院情報を頂きれ介できない時にはソーシャルワーカーに相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化や終末期に関しては、家族から質問があり、分かりやすく納得がいくように説明をしている。昨年からの医療連携加算を頂くことで看取りまでの説明をしている。	入居時に、看取りを前提として家族にホームの指針を説明している。家族の希望のある場合は、協力医の助言を受けて家族と話し合い、これまでも複数の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署にお願いして、ADE、心マッサージ、誤嚥・三角巾、止血の方法、毛布で担架の作り方等定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域でも災害対策に力を入れており、災害については運営推進会議にていざという場合に施設を利用してもらえるように言葉がけや協力体制が取れるように話をしている。	年2回の内1回は消防署の立会の下、消火、通報、避難訓練を実施し、訓練後に消防署の助言を得ている。ホームに新たにAEDを設置し、通報装置、飲食の備蓄、スプリンクラーを完備して有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の名前を呼ぶときには、必ず苗字で「さん」で統一。同じ苗字の方に対しては下の名前で声掛けをしている。	呼称は失礼のないよう、苗字に「さん」をつけ、同一の姓の場合は下の名前で呼ぶこととしている。利用者の誇りを損なわないよう無用な支援を避け、利用者の了解を取り、利用者のペースを大切に接遇している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護職が色々な場面で決定するのではなく、利用者の希望・要望が本人の言葉で伝えることができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「洗濯物はまだ乾いていないかね」「私が洗おうかね」と自分の毎日のペースで過ごされている。希望があれば添うように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が自ら選んで服を着用され「これでいいかね！」「私が洗おうかね」と自分の毎日のペースで過ごされている。希望があれば添うように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き・下膳・調理の下ごしらえ・胡麻すり・大根おろし等準備や片づけを一緒に行う。「いただきます」「ご馳走様」は利用者担当制でお願いしている。	食材は、地域のスーパーの配達サービスを利用して調達している。献立は、職員が冷蔵庫の食材を見て決め、家庭的で旬を意識した料理を提供している。利用者の誕生日は、職員が知恵を絞るプレゼント食である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、野菜を多くとる献立を職員が考え、外部の管理栄養士に献立表をチェックをもらいアドバイスをいただいている。水分量は1日1500ccを基準としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後1日4回の口腔ケアを実施している。8020運動で今年度は2名表彰された。口腔に関して敷地内歯科医による勉強会を開催。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツ使用を基本にしている。排泄失敗があってもすぐにオムツ使用を考えないで、排泄記録を参考にトイレ誘導を実施している。	排泄記録を取り、利用者の排泄のパターンを把握して快適な排泄となるよう努めている。車椅子の利用者は歩行訓練を行い、自立度を高めて紙オムツを布パンツに改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	植物繊維の多い食材を利用したり、乳製品を取り入れることで便秘予防には工夫をしている。天気の良い日は散歩に出かけたり、寒い日は廊下を往復したり、軽体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	しょうぶ湯・ゆず湯等、季節を味わって入浴を楽しんで頂いている。入浴時に大きな声で歌を楽しんだり、昔話に花が咲くこともある。	1日おきの入浴を基本に、衛生面や医療面の必要から毎日の入浴にも柔軟に対応している。歩行に不安のある利用者は、安全を優先してシャワー浴に留めている。柚湯、しょうぶ湯を利用者の楽しみとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前にエアコンで湿度調節や加湿器で空気の乾燥を防いだり安眠できる環境づくりに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師を講師に招き、利用者お一人お一人がどのような薬を服用し、副作用があるか定期的に研修会を開催している。処方変更があった時は薬剤師より情報をいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干す・たたむ・掃除・カーテンを開ける・おしぼり作り・食器を拭く等、自分ができる役割を理解されている。お寺カフェは毎月の楽しみと気分転換になる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族や友人の面会時に近所の喫茶店でお茶を楽しんで頂けるように声掛け支援をしている。四季を通して地域の行事に参加したり公園に散歩にでかけている。	近所の公園、神社に散歩に出かけ、季節の花見や初詣を楽しんでいる。地域の喫茶店、外食、お寺主催のカフェ、盆踊り、ホームの広い駐車場の夏祭り、お茶会等に出かけることで、利用者のメリハリある暮らしとなるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方は若干のみで自己管理をお願いしている。入所時に、ご家族にお金の所持については納得して頂けるように説明をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月には年賀状を書いて頂いたり、家族の声が聴きたいと希望があればその場で電話をしていただいたり、家族や友人から電話があった場合はご本人に電話に出て頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の季節感を取り入れられるように工夫をしている。3月の雛祭りには職員手作りのお雛様が顔を揃えて季節の行事等を体感していただいている。各居室は加湿器で湿度調節をして空気乾燥を防いでいる。	掃除、美化中心の担当職員を配置し、嫌な臭いのない清潔な空間としている。リビングの南側の大きな履き出しの窓から十分な採光を取り入れ、利用者は相性や仲よし同士を考慮したテーブル席で穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一つの家族としてお互いに思いやりをもって過ごしておられる。一人になりたい時や読書をしたい時などは居室で静かに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者やご家族が過ごしやすいように家具を配置され、使いやすい馴染のソファやテーブル	利用者の使い慣れた家具、テレビ、好きな音楽の聞けるラジカセ、ぬいぐるみ、家族写真、遺影等を自由に持ち込み、利用者個別の暮らしの空間としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ネームプレートやトイレマーク等、分かりやすい位置に配慮してあり戸惑うことなく生活されている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392500266		
法人名	株式会社アバンセラライフサポート		
事業所名	グループホーム ころる春日井		
所在地	愛知県春日井市下市場4丁目13-8		
自己評価作成日	平成28年 3月10日	評価結果市町村受理日	平成28年 4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2392500266-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2392500266-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎朝決まった時間になると2Fから歩行可能入所者が下肢機能訓練を兼ねて職員と共に階段を使って、ゆっくり降りてきている。入所者・職員がグループホームの理念と運営理念を大きな声で提唱している。その後、ラジオ体操を実施している。個々の状況に合わせて、食後の食器拭きや、おしぼり巻など日常生活の機能訓練を自然体で行って頂いている。家庭の団欒のような雰囲気、他者を思いやりながら笑顔や笑いが絶えないことで免疫力を高めている。入所者や職員の笑顔が自慢の施設である。入浴は週3回を基本とし清潔保持や気持ちよく過ごして頂いている。食事は行事食・日々の食事共に手作りを実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスと地域とのつながりを基本に作り上げた理念を毎朝、ラジオ体操前に利用者と職員で唱和し、理念に基づいた介護を実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事に声をかけて頂いたり地域とのつながりを大切に溶け込めるように努力をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての理解されていない面会者や見学者に介護の方法や対応の仕方を説明をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の介護度や職員の紹介、毎日の行事等を報告することで生活状況を把握している。確定申告の時期になると「障害者控除」についてや借りやすく市から説明してもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の案内やホーム便りを届けたり、困ったことや解決できないことに対して、介護保険課に意見を求めたりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ安全のために施錠を行っている。デット柵使用に関してはADL保持や転倒・転落の危険性のない利用者から排除を行い、身体拘束をしないケア介助につなげている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の会話や言葉がけ、何気ない介助の中にも虐待が潜んでないか十分注意を払い事例で学ぶ機会をもうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者のご家族が成年後見人をされており、常に健康に配慮し安心した生活が送れるように生活状況を把握されていることで成年後見人制度とは、どのような制度が自然に学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては入居時に分かりやすく説明をしている。料金改定時には、運営推進会議の場や手紙等で説明を行い納得していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に日々の暮らしぶりや体調状況をお知らせしている。家族からの意見や要望はブロック会議に議題として本社マネージャーや各施設長で話し合いの場を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や何気ない会話の中で困っていることはないのか、働きやすい職場を作るにはどのようにしたらよいか、意見交換がしやすい雰囲気作り心掛けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のモチベーションを今以上に上げることで各自の向上心に繋がると思っている、技術向上に向けて意見を取り入れ取り組みたい課題の一つである		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では、施設利用者に合わせた服薬関係や移乗の仕方、おむつの当て方等利用者の状態を把握できる研修を行っている。外部研修にも職員が順次参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設サービス部会に参加することで他の施設の管理者や職員と交流を持つことができお互いの施設を行ったり来たりしながら良い点を吸収している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入所することにあたってどのような要望があるのか、困っているのか、どのような生活を望んでいるのかを聴き取り安心してもらえるような関係作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に毎日の生活状況を伝えたり、会話の中から今までの暮らしぶりを聴き取り家族が何を望んでいるのか、どのような生活を希望しているのか把握している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設内サービスで何ができて何をしてはいけないのか、を説明をし理解をしていただいているので、本人に適したさびすを供給している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にもリハビリテーションを兼ねて食事作りや洗い物を共に行い、洗濯物をたたんだり干したテーブルを拭いて頂いたり、モップ掛けなども自分の仕事のように協力し合い生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族訪問があった時など、近くの喫茶店でお茶を飲んで頂いたり、通院時には外食をしていただいたり家族との関わりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時にはご自宅まで出かけ近所さんと立ち話をしたり、元同僚の方と出かけたり来て頂いたりして楽しい時間を過ごす支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が一つの家族として生活している。利用者が一人姿がみえない時など職員に「あの人どうしたの」と心配されたりしている。どなたかの家族様が来られた時なども皆さんどなたも嬉しそうにされ「よかったね」と声掛けされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が亡くなれば契約が切れた後も時々遊びに来て下さりお話しされたりおやつを皆さんと召し上がられたり過ごしていられる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に寄り添うかいごをしているが困難時にはすぐに個人カンファレンスを開き対策、検討を行う。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や入居等に今までの生活歴や情報を把握しているが日々の暮らしの中の雑談からも暮らしぶりを聞くことができる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルや体調を確認することで健康に感しては十分配慮をしている。自分ができる役割に関しては理解されておりご本人の力量を理解していされている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のミーティングに個別カンファレンスを行い、現状や、出来ること、出来ないことを把握し、ご家族が面時には、会話の中から希望を聞くように心がけて介護計画に活用している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、夜勤者との申し送りをを行い、再度各階の職員と気づきや変化を報告し合う。夕には、日中の出来事や変化を再度申し送りをし情報を職員が共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々どのような事態にも対応できるように優先順位を考えての介助や支援が実践できるように取り組みができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広報春日井、町内の回覧板、利用者家族等から情報をもらい参加できる行事は一緒に楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族も通院している医療機関がかかりつけ医として月1回の往診がある。往診で対応できない時には病院にて適切な治療が受けられることで早期完治に繋がっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問介護士による健康チェックが行われている。その都度看護師に利用者の情報を伝えることで適切な治療や情報が先生に伝わる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院情報は家族と一緒に同席し情報を得るようにしている。他院時には看護サマリーや退院情報を頂きれ介できない時にはソーシャルワーカーに相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化や終末期に関しては、家族から質問があり、分かりやすく納得がいくように説明をしている。昨年からは医療連携加算を頂くことで看取りまでの説明をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署にお願いして、ADE、心マッサージ、誤嚥・三角巾、止血の方法、毛布で担架の作り方等定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域でも災害対策に力を入れており、災害については運営推進会議にていざという場合に施設を利用してもらえるように言葉がけや協力体制が取れるように話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の名前を呼ぶときには、必ず苗字で「さん」で統一。同じ苗字の方に対しては下の名前で声掛けをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護職が色々な場面で決定するのではなく、利用者の希望・要望が本人の言葉で伝えることができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「洗濯物はまだ乾いていないかね」「私が洗おうかね」と自分の毎日のペースで過ごされている。希望があれば添うように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が自ら選んで服を着用され「これでいいかね！」「私が洗おうかね」と自分の毎日のペースで過ごされている。希望があれば添うように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き・下膳・調理の下ごしらえ・胡麻すり・大根おろし等準備や片づけを一緒に行う。「いただきます」「ご馳走様」は利用者担当制でお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、野菜を多くとる献立を職員が考え、外部の管理栄養士に献立表をチェックをもらいアドバイスをいただいている。水分量は1日1500ccを基準としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後1日4回の口腔ケアを実施している。8020運動で今年度は2名表彰された。口腔に関して敷地内歯科医による勉強会を開催。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツ使用を基本にしている。排泄失敗があってもすぐにオムツ使用を考えないで、排泄記録を参考にトイレ誘導を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	植物繊維の多い食材を利用したり、乳製品を取り入れることで便秘予防には工夫をしている。天気の良い日は散歩に出かけたり、寒い日は廊下を往復したり、軽体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	しょうぶ湯・ゆず湯等、季節を味わって入浴を楽しんで頂いている。入浴時に大きな声で歌を楽しんだり、昔話に花が咲くこともある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前にエアコンで湿度調節や加湿器で空気の乾燥を防いだり安眠できる環境づくりに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師を講師に招き、利用者お一人お一人がどのような薬を服用し、副作用があるか定期的に研修会を開催している。処方変更があった時は薬剤師より情報をいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干す・たたむ・掃除・カーテンを開ける・おしぼり作り・食器を拭く等、自分ができる役割を理解されている。お寺カフェは毎月の楽しみと気分転換になる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や友人の面会時に近所の喫茶店でお茶を楽しんで頂けるように声掛け支援をしている。四季を通して地域の行事に参加したり公園に散歩にでかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方は若干のみで自己管理をお願いしている。入所時に、ご家族にお金の所持については納得して頂けるように説明をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月には年賀状を書いて頂いたり、家族の声が聴きたいと希望があればその場で電話をしていただいたり、家族や友人から電話があった場合はご本人に電話に出て頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の季節感を取り入れられるように工夫をしている。3月の雛祭りには職員手作りのお雛様が顔を揃えて季節の行事等を体感していただいている。各居室は加湿器で湿度調節をして空気乾燥を防いでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一つの家族としてお互いに思いやりをもって過ごしておられる。一人になりたい時や読書をしたい時などは居室で静かに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者やご家族が過ごしやすいように家具を配置され、使いやすい馴染のソファやテーブル		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ネームプレートやトイレマーク等、分かりやすい位置に配慮してあり戸惑うことなく生活されている。		